

## 第四次かごしま市食育推進計画（素案）修正について

	修正前	修正後	該当箇所
1	<p>平成29年度調査（以下、「前回調査」という。）と比較すると、関心がある割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」）は両世代で増加しており、中学生～18歳未満では前回調査より10.6ポイント増加しています。</p> <p><u>これまで、さまざまな講演会や講座を実施するなど食育の周知・広報に努めており、今後も引き続きこの取組を進めてまいります。</u></p>	<p>平成29年度調査（以下、「前回調査」という。）と比較すると、関心がある割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」）は両世代で増加しており、中学生～18歳未満では前回調査より10.6ポイント増加しています。<u>また、性別で見ると男性と比較すると女性の方が関心がある割合は高くなっています。</u></p> <p><u>引き続き様々な講演会や講座等を実施して食育の周知・広報に努めるとともに、男性の食育に関する関心度を上げる工夫も行いながら全体の関心度を高めてまいります。</u></p> <p><b>※裏面グラフの追加</b></p>	4頁
2	<p>マスメディア等で食品ロスの問題が取り上げられていることなどが一因と考えられます。今後は、言葉の認知度を上げる取組を行うとともに、食品ロス削減への取組を広げていく必要があります。</p>	<p>マスメディア等で食品ロスの問題が取り上げられていることなどが一因と考えられます。<u>また、食品ロスの問題は、環境面だけでなく、食べものをつくる生産者・製造者への感謝の気持ちや、食べものを無駄にしないという道德面にも関係しています。</u>今後は、言葉の認知度を上げる取組を行うとともに、<u>環境と道德の両方の立場から食品ロス削減への取組を広げていく必要があります。</u></p>	14頁
3	<p>我が国では、食料を海外からの輸入に大きく依存する一方で、（中略）食品ロスは事業所からのものがほとんどと思われがちですが、実際は全体の約半分は家庭から出ており、<u>私たち一人ひとりの食品ロス削減につながる取組が</u></p>	<p>我が国では、食料を海外からの輸入に大きく依存する一方で、（中略）食品ロスは事業所からのものがほとんどと思われがちですが、実際は全体の約半分は家庭から出ています。</p>	29頁

<p>大切となります。</p>	<p>私たち一人ひとりが「もったいない」という意識を持ち、食品ロス削減につながる取組をしていくことが大切となります。</p>	
-----------------	--	--

